

気仙沼湾・広田湾貝毒プランクトン調査結果

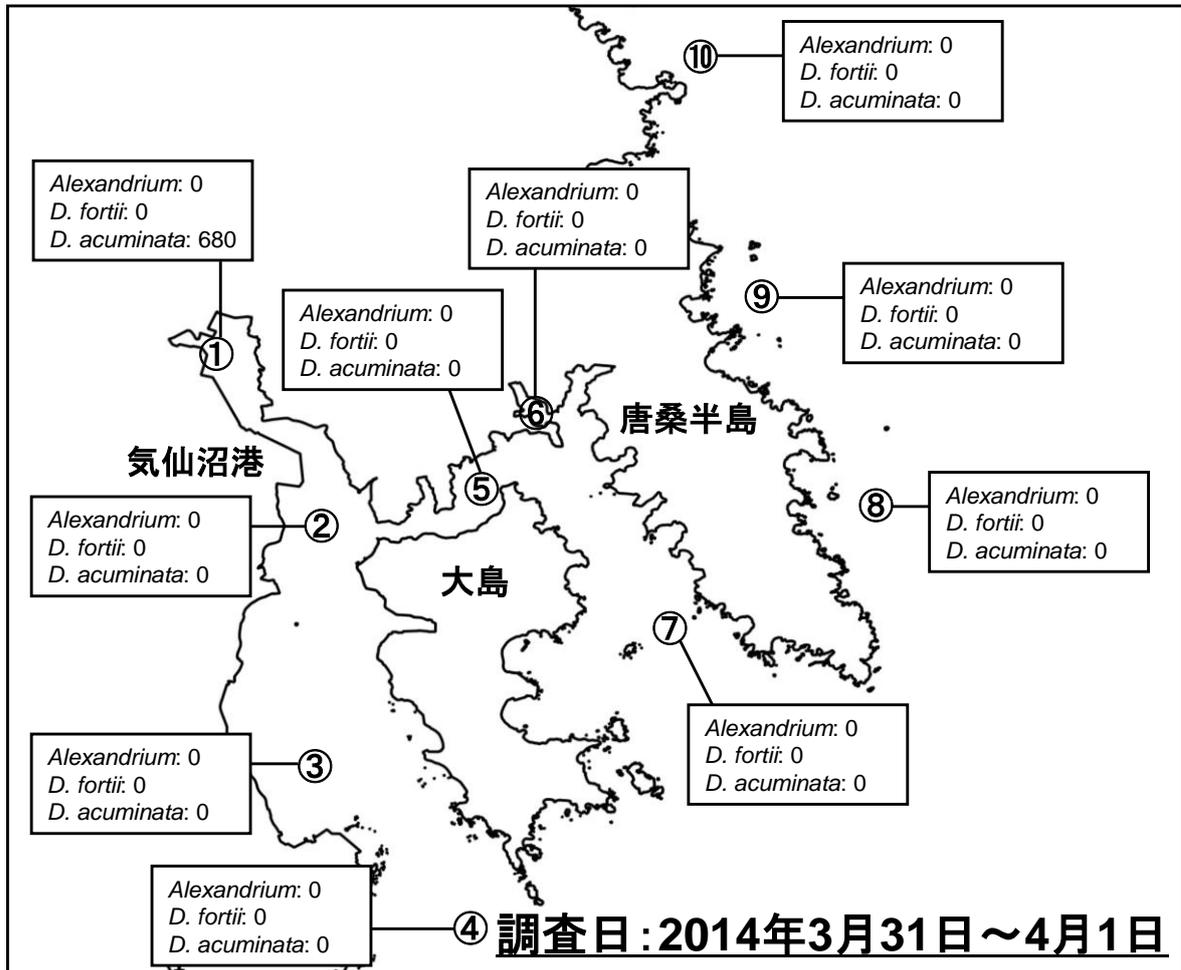


表 2014年3月31日~4月1日の調査結果

調査地点	水温	塩分	貝毒プランクトン出現数(細胞数/L)				備考
			Alexandrium	Dinophysis			
				D. fortii	D. acuminata	その他のDinophysis	
①港町	6.47	27.28	0	0	680	0	
②母体田	5.75	32.03	0	0	0	0	
③二つ根	6.24	32.33	0	0	0	0	
④岩井崎	-	-	-	-	-	-	
⑤大島瀬戸	5.56	32.28	0	0	0	0	
⑥舞根	5.68	32.27	0	0	0	0	
⑦唐島	-	-	-	-	-	-	
⑧滝浜	3.90	-	0	0	0	0	
⑨石浜	4.70	-	0	0	0	0	
⑩大沢	5.20	-	0	0	0	0	

※Alexandriumは麻痺性貝毒、D. fortiiとD. acuminataは下痢性貝毒の原因となります。
 ※水温、塩分、プランクトンは0~10 mのホースを用いた柱状採水によるサンプルのデータになります。
 ※海況が悪いため、岩井崎と唐島は欠測とします。

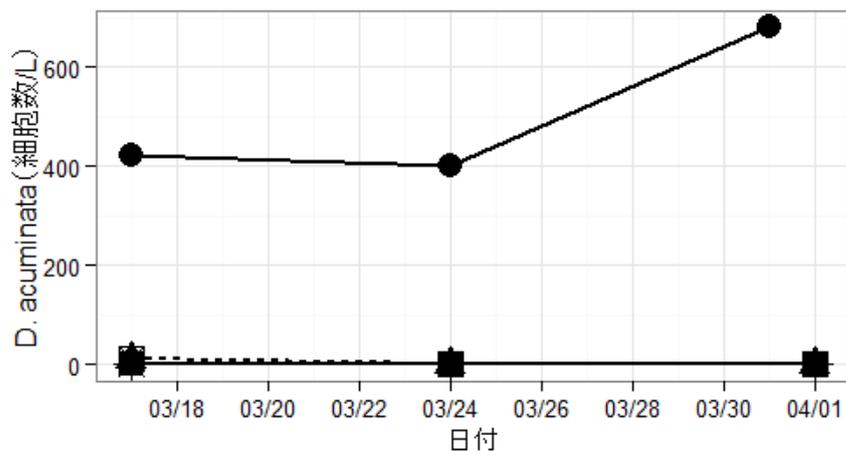
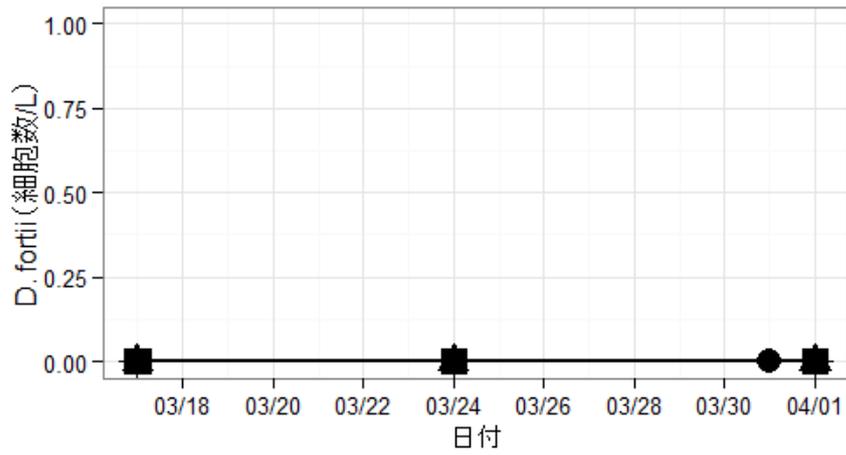
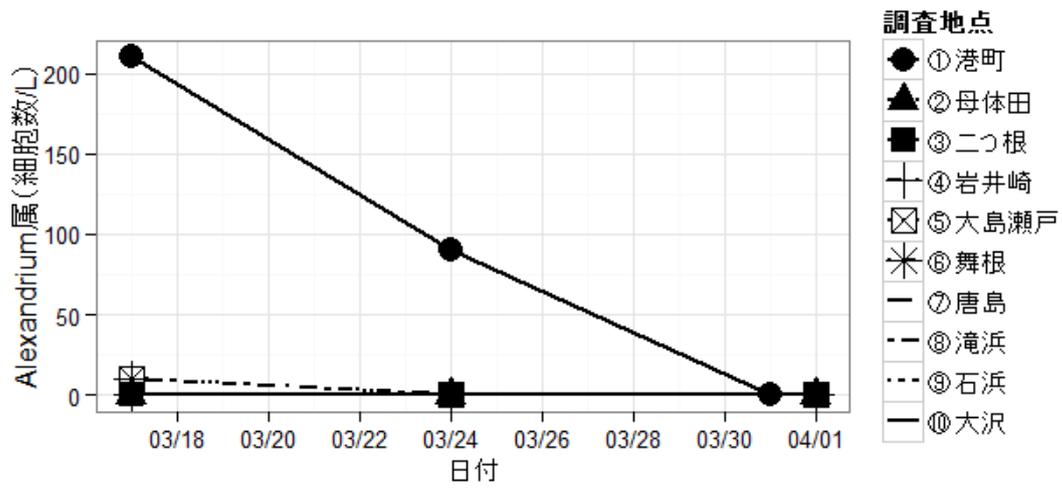


図 これまでの調査結果 (2014年3月17日~4月1日)